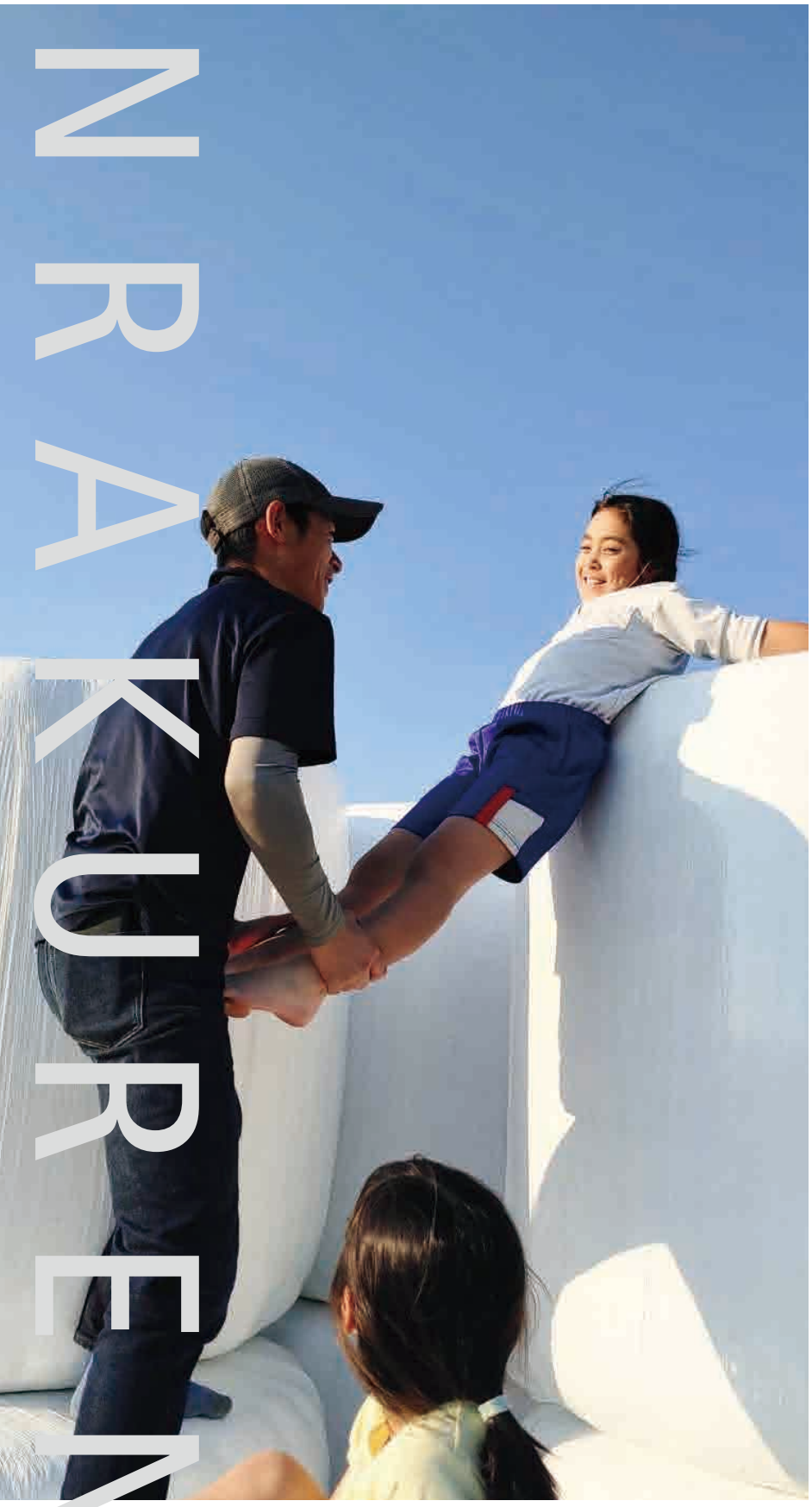
ZENRAKUREN

全酪連会報 5

2023 MAY No.692



酪農とのかけはし／
愛媛県酪連 大洲SP
運送担当 班長
石田量敬さん

酪農部だより／
新商品「牛飼いのバター」

日本酪農見て歩紀／
坂本牧場（岩手県盛岡市）

一般社団法人 全酪アカデミー
令和5年度入職式

酪農トピックス／
北海道酪農青年女性会議
「人生のどこかで酪農をしたい」を応援（札幌）
ほか

酪友フォーラム2023開催のご案内

作品募集のお知らせ

LINE公式アカウントができました！
登録お願いします！

酪農青年女性会議
@642bpcwk
LINE

全国酪農業協同組合連合会

酪農とのかけはし

第43回　愛媛県酪連 大洲SP 運送担当 班長 石田量敬さん

愛媛県の配送事情

▲ 愛媛県酪連 南予指導事務所（大洲SP）

今回は、愛媛県酪農業協同組合連合会（河野仁代表理事会長）の大洲ＳＰで、飼料配送を担当されている石田量敬さんに話を伺いました。

愛媛県西部（南予）63戸の内、大洲ＳＰが担当するのは17戸。主に県の北西部の配送を担っています。

現況

仕事の内容

仕事の内容は、地域の酪農家の皆さんへの配送や在庫管理などの倉庫業務、段取りです。

牧場に餌を届けた際に、乾草、タンク内の配合残量を配送ドライバーへ確認させ、使用ペースを確認しＳＰの在庫調整をしています。ＳＰに多めに在庫を抱えれば、在庫切れの心配はありませんが、長期保管の恐れも出てきてしまいます。そうではなく、なるべく新しいものを生産者へ供給したいと考えています。

現在の職業に携わるまでの道のり

私は前職で自動車整備士をしていました。ある時にヘルニアを発症し、手術、入院する一歩手前の状態になりました。その際、担当してくれた医師に、「仕事をするのは、会社のためか？自分のためか？」と問われ、目が覚める思いでした。その後、会社を退職し、当時の担当医の勧めもあり運送業へと歩を進めました。

そして入社数年後、多くの人が集まる大洲事務所へ配属が決まりました。以来26年の間、大洲事業所で勤めています。

石田量敬さん の 1日のタイムスケジュール

7:00 ▶	大洲SPにて倉庫オープン、荷下ろし準備
7:30 ▶	コンテナ導入作業、荷下ろし
8:30 ▶	検品作業、倉庫荷入れ
10:30 ▶	各種トラックへ積み込み、訪問農家対応、倉庫在庫管理、翌日配達準備、工場からの荷受け準備
15:00 ▶	タンク残量や分娩状況確認の下、飼料使用ペース確認、週間オーダー作成
16:00 ▶	

自身の仕事と酪農とのかかわり

ずばり、「切っても切れない縁」です。生産者あっての我々運送会社。飼料部門、集乳部門、製品配送部門等、あらゆる面で酪農の配達と関わっています。そんな中で、ふとした時にお客様から「ありがとう」の言葉をもらえると、本当に携わっていて良かったと思えます。

酪農の魅力

昨今の酪農情勢は大変厳しい環境で、生産者のご苦労は大変なものですが、酪農は地産地消による地元の農業活性化が可能な、日本の食を支える素晴らしい仕事だと思います。

愛媛県内では、牛の飼料としてミカンジュース粕などの副産物利用を利用することもあり、資源循環の一端を担っています。また、地元の耕種農家のみなさんと堆肥を通じたやり取りもあるようで、地域活性化につながっているように思います。

酪農に望むこと

自身が動ける内は、「1軒たりとも廃業はしてほしくないものです。後世にも残し、繋いでほしい。」とたっての願いです。

後継者に至っては、「誰に強制されずとも、自分の意志でやりたくなる」、そんな明るい時代になってほしいものです。

全国の酪農家に一言！

「ため息をつくと幸せが逃げる」と言いますが、苦悩の今を何とか耐え、明日へ、その先へとバトンを託していってください。

「牛飼いのバター」の美味しい食べ方

なめらかな口当たりとさっぱりした後味が特徴の「牛飼いのバター」は、いつもの料理にちょい足ししても毎日飽きずにお召し上がりいただくことが出来ます。素材の味を引き立てるソテーや、オーブン料理・焼き菓子など、様々な料理と相性抜群です。ぜひ一度お召し上がりください。

レシピ

●アスパラガスと香草のソテー

フライパンにバターとお好みの香草をいれ火にかける。

香草の香りがたってきたらアスパラガスを入れ、塩・コショウを加え、全体に火が通るまで軽く炒める。

●焼きリンゴ

オーブンは 200℃で余熱しておく。

りんごを 2cm 幅の輪切りにし芯はくりぬいておく。

耐熱皿に切ったりんごを入れ、はちみつをお好みでかけて、しんなりと黄金色になるまでオーブンで 15 ～ 20 分焼く。

オーブンから取り出し、温かいうちにバター、お好みでシナモンパウダーを乗せる。

▲ クロワッサンあんバターサンド

▲ たらこバター醤油ご飯

直売所

【北福岡工場】
〒 028-6103
岩手県二戸市石切所字杉ノ沢 1-2
※土・日・祝日を除く　9：00 ～ 15：00

乳製品自動販売機

【全酪連本所】
〒 151-0053
東京都渋谷区代々木 1 丁目 37-2

オンラインストアから全酪連商品が購入できます。

➡ https://zenraku.stores.jp

岩手県二戸市から
自然のめぐみを、あなたと。

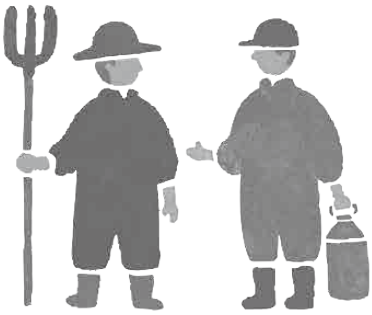
牛飼いのバター
全酪 FARMERS BUTTER

岩手県二戸（にのへ）市から、「美味しい」をお届けします。

全酪連のバターを製造する北福岡工場は、1952 年の創業開始時から約 70 年間岩手県二戸市でバターの製造を行ってきました。二戸市は岩手県の北端に位置しており、市の中央を馬淵川（まべちかわ）が流れ、東に折爪岳（おりつめだけ）、西に稲庭岳（いなにわだけ）を有する自然豊かな場所です。

牛飼（うしか）いのバターは、二戸市の自然風景や文化、牛飼いと牛たちの営みの様子をパッケージに描き“地元で愛される商品”を目指して開発されました。

「牛飼いのバター」は、主に北東北地区の良質な生乳を使用してつくられています。酪農家さんに大切に育てられた牛たちの生乳は、美味しいバターをつくるために必要不可欠です。全酪連北福岡工場では、毎日生産される生乳を一滴も無駄にしたくないという思いで、日々生乳を受入れ、バターの製造を行っています。



安心安全な製品をお届けするために

全酪連のバターは、毎日食べても飽きない美味しさです。日々工場に搬入されてくる生乳は日ごとに成分に若干のばらつきがありますが、生乳の状態に合わせて微調整を行いながら、丁寧に製造することで高品質なバターとしてお客様にお届けしています。また、生乳の受け入れから製品になるまでの間にたくさんの厳しい検査を行なっています。消費者の方に毎日安心安全なバターをお届けするため、全酪連は責任をもって製品作りに取り組んでいます。

日本酪農見て歩紀

No.359

▲ 坂本誠悟さん

坂本牧場
岩手県盛岡市

手堅くコツコツ、着実な経営を

地域の紹介

今回訪問した坂本牧場は、岩手中央酪農業協同組合（工藤定幸代表理事組合長）に所属し、岩手県盛岡市玉山地域に在ります。盛岡市は岩手県の中部に位置しており、岩手県の県庁所在地及び最大の都市として政治、経済、交通の中心となっています。かつて存在した盛岡城を築き、城下町としてこの地を発展させた盛岡藩主・南部一族が「盛り上がり、栄える岡」という意味を込めて「盛岡」と命名したと言われています。盛岡市は自然豊かな風景も特徴的で、岩手県最高峰の岩手山と玉山区出身の天才詩人・石川啄木がこよなく愛したとされる姫神山を望むことができます。

歴史的な建造物や文化、山や川の自然にも囲まれている魅力が評価された盛岡市は、アメリカのニューヨーク・タイムズ紙が令和5年1月12日に発表した「2023年に行くべき52カ所」に選ばれました。国内だけではなく、海外からも注目が集まり、今後のさらなる発展が期待されています。

坂本牧場の概況

牧場主の坂本誠悟さん（38歳）にお話を伺いました。

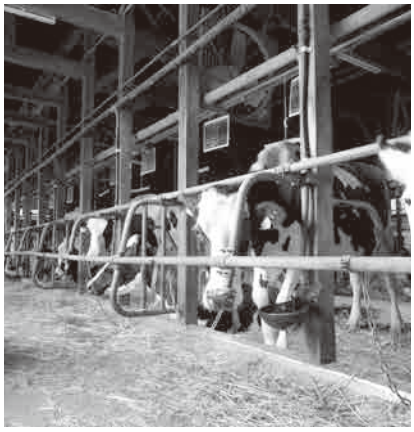
現在の飼養頭数は53頭、うち経産牛が31頭となっています。生乳生産量は日量900kg前後とのことで、経産牛1頭あたり約30kgを維持しています。施設は対尻式のつなぎ牛舎、育成牛舎がありますが、育成牛の一

▲ つなぎ牛舎全景

部はつなぎ牛舎で管理しています。自給飼料はオーチャードを11町歩、デントコーンを4町歩作付けしています。粗飼料はこの自給オーチャードがメインですが、不足分は国産の購入ロールで賄っているそうです。

ご家族はご両親（ともに70代）、奥さんと中学生のお子さん2人がいらっしゃいます。牧場の作業は誠悟さんとご両親の3人で、作業分担は給餌や哺乳がご両親、搾乳やそのほかの作業全般は誠悟さんが担当しています。奥さんは非農家出身で現在は別の職業に就いているそうですが、ご両親の引退後は牧場作業に入る予定だそうで、大型特殊免許を取得済みとのことです。

酪農以外に米も出荷している複合経営ですが、叔父や従兄弟に手伝ってもらいながら作業されているそうです。稲刈りや田植えの繁忙期は奥さんや兄弟・親戚総出で作業を行っています。


▲ つなぎ牛舎の搾乳牛

▲ 子牛

坂本牧場の沿革

誠悟さんのお父さん・誠一さんが牛を飼い始めたのが始まりでした。当時は養豚もやっていたそうですが、最終的には牛のほうが経営が安定すると判断し、和牛20頭とホルスタイン15頭ほどを飼育していました。やがて誠悟さんらご姉弟が生まれ、家族を養うために、安定的な収入を得られるホルスタインをメインに徐々に頭数を増やしていったそうです。

誠悟さんは5人姉弟の末っ子として生まれました。中高生のころは手伝いで子牛の世話をすることもあったそうです。「子牛を数週間世話し、市場で売れた値段の1割を小遣いでもらえることもありました。どうやったら高く売れるか考えて、セリ結果の一覧表もよく見ていました。自分が頑張った結果が分かりやすい形で現れるので面白かったですね。」と仰っていました。

ですがご実家の酪農を継ぐ気はあまりないまま、岩手県立盛岡農業高校の農業科で畑作の勉強をし、卒業後は機械に触ることが好きで整備士の専門学校へ進学しました。在学中の21歳のときに誠一さんが体調を崩してしまい、学業か実家を手伝うか迷ったそうですが、学校を中退して牧場の作業に入ることにしました。作業に入ってみると子どものころに嫌だった匂いも意外にも気にならず、自分のペースで仕事ができる自営業がとても魅力的に感じたそうです。

▲ 管理表

1年ほど経った頃に所属組合の酪農ヘルパーの誘いを受け、ヘルパーをしながら実家の作業を手伝うことになりました。それまで酪農の勉強をしたことがなかった誠悟さんは、ヘルパーで伺う酪農家さんや先輩ヘルパーから学んだそうです。その時に得た知識や知恵は、今の飼養管理に活かされているとのことです。

平成30年の誠悟さんが33歳のときに、ご両親の年齢のことを考えてヘルパーを退職し、本格的に牧場の経営を継ぐこととなりました。今年で6年目となります。

飼養管理の特徴

坂本牧場は飼料設計と繁殖管理の2つを特に気を付けているそうです。

飼料設計では、牛群管理システムや牛群検定から得られる情報をもとに、内容を調整しています。この時に心掛けているのはあまり過度な変更はしないこと。良い飼料はその分値段も高いことがあるので、まずは今使っているエサの中で割合を変えたり、給与方法を工夫したりしているそうです。

繁殖管理も牛群管理システムや牛

群検定を活用しています。また、同級生の従兄弟が家畜人工授精師をしており、発情と思われる行動があればすぐに来て見てもらっているそうです。誠悟さんは「繁殖が回らなくなれば生乳生産にも悪い影響が出るので、繁殖が何よりも1番大事だと思っている。遺伝子改良やゲノム評価も興味があるが、それはこれから少しずつやれれば」と自家育成牛の展望も話してくださいました。

これまでで1番苦労されたことを伺ってみますと、東日本大震災での出来事を話してくださいました。当時は原発事故の影響で自給飼料が使えず、代替として配布された輸入粗飼料を給与することになりました。それまで輸入粗飼料を使ったことがなく、知識がないまま草種を選んでしまったところ、栄養バランスが崩れて分娩の度に事故が起きてしまいました。その時は原因もしばらく分からず、廃用により頭数が減ってしまったそうです。これから稼ぐ牛が倒れてしまうのは経営のダメージが大きく、知らないことの怖さを実感した出来事でした。震災から数年が経ち、自給飼料をメインとした元の給与体系に戻して少しずつ頭数を増やすことで立て直したそうです。

▲ バンカーサイロの後ろには姫神山を望むことができます

酪農仲間とのつながり

誠悟さんは玉山地区の青年部長を務めていらっしゃいます。この数年は新型コロナウイルスの影響でほとんど活動できていませんが、例年ですと牧場視察や、スポーツ大会などが行われていました。「青年部で情報交換ができることは本当に大きな意味がある。自分は酪農の勉強をしないまま就農しているので、先輩酪農家さんの話は勉強になることばかり。」と、ご自身のヘルパー時代の経験もあって今後の活動再開にとても意欲的です。

視察や先輩酪農家さんの話を通じて取り入れたことはたくさんあるそうですが、牛舎をきれいにすることはとても参考になったと仰っていました。牛舎をきれいに管理しているところは牛の状態もいいと感じたそうです。掃除に限らずどんなことも、「面倒なことを面倒と思わずにやること」が一番儲かると思って作業しているとのことです。

今後の目標・取組

分娩間隔の短縮と、草地面積の拡大を目指したいと仰っていました。草地の拡大には新たな機械の導入も必要になりますが、機械の導入はせず家族や親戚の力を借りながら、購入ロールに頼らない経営にしていきたいそうです。

牛舎はパイプラインを延長すれば最大50頭搾れるような設計になっています。将来の頭数増加を見据えて、作業性や食い込み改善のために自動給餌機やTMRミキサーの導入も考えているそうです。しかし昨今の酪農情勢での導入はリスクが大きく、ご両親が健在ですので、「夢ややりたいことはいっぱいある」としつつも、今は様子を見ながら考えているところだそうです。

▲ バルククーラー

終わりに

今回の取材では、誠悟さんの「自分で工夫できることは実践して、コストを抑えたい」というお考えと、着実に歩んでいく強い意志がうかがえました。慎重で堅実な酪農経営という印象が残っております。お父様の誠一さんも社会情勢に合わせて和牛とホルスタインの頭数を変えたり、小さな牛舎を少しずつ増築したりと、コツコツと経営されていたようです。

取材した日はとても暖かく、本格的な春の訪れを感じる日でした。農作業で忙しくなる時期に快く取材を引き受けていただき、感謝申し上げます。坂本誠悟さんとご家族のますますのご健勝と、坂本牧場のますますのご発展をお祈りいたします。

一般社団法人 全酪アカデミー
令和5年度入職式

北池理事長 ▼

▲ 前列左から前田達也さん、前田ヴィオリスカさん、髙橋帆乃佳さん

去る4月3日(月)、東京・代々木の酪農会館で一般社団法人全酪アカデミーの令和5年度採用研修生の入職式が執り行われました。

今年度の入職者（研修生）は、前田ヴィオリスカ・達弥ご夫妻、髙橋帆乃佳さんの2組3名です。前田夫妻は静岡出身で、ご主人は印刷会社で、奥様は保育士としてそれぞれお勤めされていましたが、酪農の魅力に気付き「新・農業人フェア（大阪会場）」にて全酪アカデミーのブースを訪問、その後何度も酪農就農に関する相談をアカデミー事務局と交わし、〝酪農に関する多くの知識と技術を学べること〟、〝全国の賛助会員から寄せられる就農地情報から就農地を探せること〟が決め手となり、アカデミー研修生に応募し採用試験を経て入職に至りました。髙橋さんは元全酪連職員です。昨年アカデミーに入職した髙橋（旧姓竹田）純真さんと学生時代からお付き合いをしており、2人の予てからの夢である「酪農家になりたい」を実現させるためにアカデミーに入職されました。

入職式で北池理事長は、「今年の秋には、熊本県と福島県で、在籍する研修生が就農する。先輩の背中を見ながら焦らず着実に技術や知識を身に付けてほしい。アカデミースタッフはもちろん、全酪連、全国酪農協会、各地の賛助会員、特別会員には引き続き強力なサポートをお願いしつつ、立派な酪農家になっていただきたい」とあいさつしました。

来賓の全酪連隈部会長は入職した3名に「酪農家になりたい」と思ってくれたことに対し感謝の言葉を伝え、「酪農産業は、酪農が持つ循環型農業が環境や国土保全に貢献している、無くてはならない産業です。3名にはぜひ希望を持っていただき、安心して酪農家になっていただきたい。全酪連は全国の会員、関係団体と一緒に、就農までの、就農後のサポートを行っていきたい」と祝辞を述べました。

今後3名は、全酪連関連牧場で1年間の基礎研修を行い、2年目以降は全国の賛助会員組合員の契約農場（酪農家）で実践研修を行い、3年後の令和8年4月の酪農就農を目指します。

一般社団法人全酪アカデミーは、後継者不足による酪農従事者の減少などへの対策として全酪連と全国酪農協会が設立した組織で、酪農就農を志す人を3年間雇用し、就農支援プログラム（教育カリキュラム）に基づき、全酪連関連牧場や賛助会員組合員の契約農場（酪農家）での実地研修や、酪農就農までに習得したい基本的な知識、農協組織、生乳取引、畜産に関する法令、畜産経営など多岐に渡る分野の座学研修を実施します。さらに、研修期間中には、就農活動としての就農地の確保、事業計画策定、事業継承など賛助会員と連携し、多面的なサポートを行います。

今期採用された3名の研修生には、充実した研修を期待するとともに、我が国の酪農を担っていくような酪農家に1日でも早く育ってもらえるよう願って止みません。

令和6年度研修生募集

一般社団法人 Zenraku Academy
全酪アカデミー

（一社）全酪アカデミーでは、
令和6年度の研修生を募集しています。

牧場で働きながら知識や技術を身に付けます。「入学金」や「授業料」などの学費は一切かかりません。現在会社にお勤めの方が退職後も安心して酪農就農を準備できる体制を整えています。

- 給与　月給 184,000 円～（夫婦での採用の場合、月給 368,000 円～）
- 休日　4週4休（農場研修は月 23 日程度）
- 有給休暇
- 借上住宅
- 通勤手当
- 社会保険

詳しくは、ホームページでご確認ください。
➡ https://z-academy.org/

札幌支所発

北海道酪農青年女性会議「人生のどこかで酪農をしたい」を応援

北海道酪農青年女性会議は、3月20日㈪に北海道大学・酪農学園大学・帯広畜産大学の酪農サークルに所属する学生19名と生産者10名による交流会を開催しました。

交流会に先立ち、家畜写真家 タキミアカリ氏により、自身が日本でただ一人の「家畜写真家」と言う職業を選ぶまでの出来事や心の動き、また現在の活動やこれから目指すことについてご講演をいただきました。酪農・農業への新たな関わり方の一例として、参加者は真剣に話を聞いていました。

続いて、軽食と飲み物を片手におよそ90分の交流会がスタート。生産者からの自己紹介の後はフリートークとなりましたが、学生はそれぞれ生産者のところへ行き、酪農情勢や技術の質問をしたり、実家の酪農についての目標を語ったりと積極的に交流している姿が見られました。ある学生は新規就農について質問をしており、その理由について「出身は関西。人生のどこかで酪農をやりたいと思い、北海道で進学した。農学を学び1年目で様々なことに興味があるが、いつか自分で酪農がしたい。」と話してくれました。

飲食もそこそこに90分はあっという間に過ぎ、残った食べ物はすべて持ち帰ることにして（食べ物を残さないことを当たり前にできる姿に事務局は感心しました）、少々時間をオーバーしての終了となりました。学生の代表からは、「酪農初心者の1年生もいたが、自己紹介により生産者の特徴が分かったので、それぞれが酪農家さんと話すことができ、貴重な機会をいただいた。今後もこのような交流の場があるととてもありがたい。」との感想をいただきました。

さまざまな選択肢を持つ学生が今回のような場で生産者と出会い、「こんな酪農をやってみたい」と言う目標や、「こういう考え方もある」と言う気付きが生まれることを願っています。（T.H）

仙　台
支所発

東北酪農青年女性会議「令和５年度 東北酪友フォーラム」開催

令和５年３月16日㈭山形県上山市「仙渓園 月岡ホテル」において、東北酪農青年女性会議（斎藤忠義委員長：福島県）主催の「令和５年度　東北酪友フォーラム」が開催されました。昨年３月に第50回の節目となる発表大会が開催されましたが、本フォーラムではその50回の歴史を振り返りながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた東北の酪青女活動を、再び活気あるものにすることを目的に開催されました。当日会場には約60名の会員生産者や関係者が出席しました。

▲ 斎藤忠義委員長

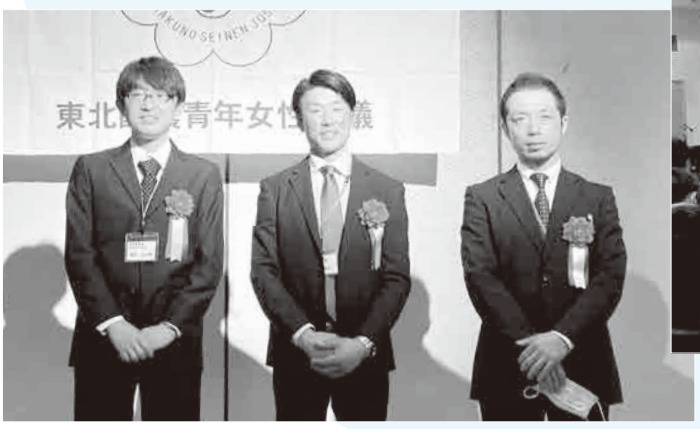
第１部では「過去の発表者による現況報告」として、過去の東北酪農青年女性会議酪農発表大会 酪農経営の部にて発表された方を中心に３名が、発表当時と現在の経営状況、違いなどについて発表しました。

山形県酪農青年女性会議 今周作さんは「1980・1995・2023」と題して、第10回・第25回大会でのご両親の発表を振りかえりながら、現在の取り組みを紹介しました。平成29年には６次産業への投資を迷いつつも省力化機器の導入を決めたこと、労働力不足が課題となる酪農において労働力を軽減しつつ生産性改善を目指していることなどを発表されました。

福島県酪農青年研究連盟 柚原友加津さんは「６次化で地域の架け橋に」と題して、東日本大震災の影響を大きく受けた福島県浜通り地域の復興の歩みと仲間の帰還、2016年発表当時に目標として掲げていた６次化の実現などを発表されました。現在はチーズ工房を立ち上げ、地域の店舗で販売しているそうです。

宮酪青年婦人連絡協議会 猪股聡士さんは「持続可能な経営を目指して」と題して、2014年発表当時に家族経営だった牧場を2017年に法人化した現在の概況を発表されました。雇用の充実、ICT機器や作業の自動化により課題となっていた労働力不足が改善され、時間・経済的にゆとりある生活ができていることを発表されました。

第２部では「各地域酪農青年女性会議の酪青女活動報告」として、宮酪青年婦人連絡協議会、みやぎの酪農青年部・婦人部、福島県酪農青年研究連盟、岩手中央酪農業協同組合青年女性会議、山形県酪農青年女性会議のこれまでの活動内容が発表されました。各地域の特色ある、また歴史のある行事や取り組みは、残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、活動が停滞しています。そのような中で、今後の本格的な活動再開に向けて取り組まれている様子や、オンラインの活用などについても報告されました。　(Y.S)


▲ 第1部発表者の皆様（左から柚原さん、今さん、猪股さん）

名古屋支所発

「生乳販売委託者女性部料理講習会」開催！

令和５年２月28日㈫、美濃市健康文化交流センタークッキングスタジオにて、岐阜県農業振興事業補助金（新規就農サポート事業）を使って、岐阜県酪連主催の生乳販売委託者女性部料理講習会が開催されました。

乳業界が厳しい状況の中、牛乳の消費を少しでも増やして頂きたく、酪農家の皆さんと一緒に簡単にできる牛乳料理に挑戦！

調理終了後、森永乳業さんのM'Sキッチンをオンライン視聴させて頂きました。

メニューは、乳清を使った飛騨牛カレー、チキンのトマト煮、カッテージチーズのサラダ、牛乳もちの４品で、短時間で作って美味しく頂きました。（M.S）

▲ 完成した料理。おいしそうです！

▲ 手際よく作れました

名古屋支所発

「令和５年中部酪農青年女性会議 酪友フォーラム」開催

令和５年３月15日㈬にサイプレスガーデンホテルに於いて、中部酪青女酪友フォーラムが開催されました。各県から30名以上が集まり、久々の再会に皆さん喜ばれていました。

研修（発表）内容は、第１部に全酪連企画管理部長の丹戸靖氏を講師に「欧州の酪農家は経営の“厳しさ”に対し、どのように向き合っているのか？」を、第２部に全酪連名古屋支所職員３名による「持続可能な酪農経営を目指して」の研修会を行いました。

第３部では、７月13日開催の「酪友フォーラム2023」で発表予定の北村克己氏により「経営の部発表から15年‼現在および未来の映像」という題目で現在の活動と将来の目標を語っていただきました。熱が入り、予定時間10分に対し30分の発表となりましたが、長さを感じられないほど良い内容でした。７月には全国の酪友に元気が出る話をしていただきたいと思います。（M.S）

▲ 西尾委員長挨拶

▲ 講師の丹戸氏

▲ 発表者の北村克己氏

▲ 酪友フォーラム風景

名古屋支所発

東海ブロック酪政連協議会「全体研修会」開催

令和５年３月24日㈮、名古屋国際センター第３研修室において、東海ブロック酪政連協議会（清水清人委員長）主催の全体研修会が開催されました。

農林水産省畜産局牛乳乳製品課補給金企画班 舘敦史班長を講師に迎え、「酪農をめぐる情勢、令和５年度酪農関連事業及び令和４年度補正予算事業について」という演目で話を伺いました。

各県から参加された委員、監事の皆さんは真剣に話を聞かれ、質疑応答では国の事業に対する質問や要望が多く出されました。

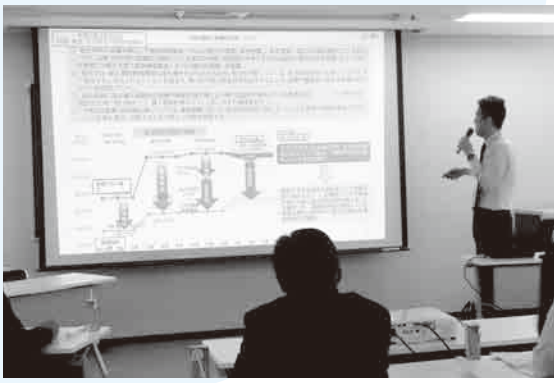
第２部では、日本酪政連 坂本保幹事長により、「酪農政治連盟活動の展開について」話を伺いました。

参加者からは、今回の研修会は大変有意義なものであったとの声を頂きました。次回も有意義な研修会を開催していきます。（M.S）

▲ 開会挨拶（清水委員長）

▲ 講師を努めて頂いた舘敦史班長

▲ 日本酪政連 坂本幹事長



▲ 研修会風景

原稿募集

「酪農トピックス」では皆様からの記事を募集しております

共進会、Ｂ＆Ｗ、酪農祭り、親睦スポーツ大会といった催事情報から組合住所の変更や移転等案内情報、そして直営店情報や組合の自慢情報まで、酪農トピックスでは会員の皆様からの原稿を募集しております。本コーナーは会員の皆様の情報交換の場です。ぜひご活用ください。

送付先 **皆様のお近くにあります本会支所までご送付・ご連絡ください。**

■札幌支所
〒060-0003
札幌市中央区北３条西７丁目１ 酪農センター５階
tel. 011-241-0765

■名古屋支所
〒460-0008
名古屋市中区栄1-16-6 名古屋三蔵ビル３階
tel. 052-209-5611

■仙台支所
〒980-0021
仙台市青葉区中央1-7-20 東邦ビル３階
tel. 022-221-5381

■大阪支所
〒532-0011
大阪市淀川区西中島5-14-10 新大阪トヨタビル６階
tel. 06-6305-4196

■東京支所
〒151-0053
東京都渋谷区代々木1-37-2 酪農会館４階
tel. 03-5931-8011

■福岡支所
〒812-0016
福岡市博多区博多駅南1-2-15 事務機ビル７階
tel. 092-431-8111

福岡支所発

「『も～っ』と知ってくだ祭! 春の酪農・牛乳フェスティバル! in九州」で消費喚起（主催：九州生乳販売農業協同組合連合会）

４月１日㈯、ＪＲ博多駅博多口イベントスペース（福岡市博多区）にて九州生乳販売農業協同組合連合会（中村隆馬代表理事会長）主催の「『も～っ』と知ってくだ祭！春の酪農・牛乳フェスティバル！ in 九州」が開催されました。行動制限も緩和された日和の良い春休みの週末で若者や親子連れ、観光客など大勢の来場者で賑わい、九州酪農青年女性会議委員も各県のハッピを着用し活動に参加しました。

牛乳愛飲感謝トークショー第１部には、中村会長と九州酪青女の中村委員長（熊本県）がダブル中村で登壇し酪農の現状について消費者へ訴えかけました。第２部では大石委員（福岡県）、狩野委員（佐賀県）、梅本委員（長崎県）、富田委員（熊本県）の女性４名が「我が家の変わったクセのある牛、かわいい牛」や「日頃のハプニング体験、酪農あるある」などのガールズトークを披露し、酪農や牛に楽しいイメージを持ってもらうような明るい話題で盛り上がりました。

ステージでは九州・福岡を拠点に活動中のアイドル『NEO ☆学院』ショーや牛乳を飲んで元気に踊るチアダンス、牛乳クイズ大会などが開催され、搾乳・哺乳・飼料を体験するスタンプラリーには老若男女問わず多く方が参加し酪農に理解を深めてもらう良い機会となりました。また、牛乳消費拡大に共鳴いただいた団体とコラボした試食・試飲や、配布用のリーフレットとＬＬ牛乳 3,000 セットは瞬く間に配り終えました。

大変厳しい酪農情勢は続いていますが、牛乳の素晴らしさを知ってもらうことが今後の消費拡大につながり、その活動を継続して行っていくことが大事だと感じました。（Y.A）

▲ W浅野ならぬ、W中村トークショー（九販連中村会長、酪青女中村委員長）

▲ ガールズトークは尽きない（左から酪青女大石委員、狩野委員、梅本委員、富田委員）

▲ 搾乳体験

▲ 哺乳体験

▲ 餌体験

▲ 牛乳とコラボ

▲ 酪青女によるサンプリング

▲「牛乳大好き!」アイドルが盛上げる

福　岡
支所発

九州酪農青年女性会議「九州酪友フォーラム2023」開催！

4月19日㈬、博多サンヒルズホテル（福岡市博多区）において、九州酪農青年女性会議（中村俊介委員長）主催の『九州酪友フォーラム2023』が開催され、九州沖縄各県より約90名の酪友が集まりました。

講演の部では、一般社団法人中央酪農会議の菊池淳志専務理事を講師としてお招きし、「酪農を巡る情勢と対応について」と題し、日本の酪農・酪農経営・生乳需給概況、経営安定のための対応などを分かり易くお話いただき、活発な質疑応答・意見交換につながりました。

講演後、福岡県出身の半農半芸タレント、『朝倉幸男』によるイベント「朝倉のおいちゃんのクイズ大会ばやらんね？ウクレレもすったい！」を催し、各県回答者が超難問野菜クイズに挑戦しました。会場は朝倉幸男の軽妙なMCと農業トークで笑いに包まれ酪友は楽しいひと時を過ごしました。結果、接戦を制した堀太さん（熊本県代表）が優勝し賞品のグッドスタートプレミアムとサインをゲット！

交流会では、各県代表選手による牛乳・飲むヨーグルト早飲み競争（ふくおか県酪青女企画）を行い、女性部門(牛乳)は圧倒的な速さで沖縄県、男性部門(飲むヨーグルト）はトロミに苦戦しながらも接戦の末に長崎県が優勝しました。長いストローに悪戦苦闘する様子が会場の笑いを誘い、「全国のフォーラムでもすったい！」と大盛り上がり。

酪友が集い、学び、笑い、飲む！ 時間を共有して絆を深め、明日に向けて頑張っていこうと思えるイベントとなりました。（Y·A）

▲ 九州酪農青年女性会議
中村俊介委員長の挨拶

▲ 福岡県農林水産部畜産課
野田美治課長の祝辞

▲ ふくおか県酪農業協同組合
草場哲治代表理事組合長の祝辞

▼ 一般社団法人中央酪農会議 菊池淳志専務理事の講演

▼ 朝倉のおいちゃんのクイズ大会ばやらんね？
ウクレレもすったい！

▲ クイズ回答者の記念撮影

▲ なかなか吸えない！ 飲むヨーグルト早飲み競争

大阪支所発

西日本酪農青年女性会議「SPRING MEETING 2023」開催

令和５年４月６日㈭鳥取県東伯郡琴浦町において西日本酪農青年女性会議（山下大介委員長：鳥取県）主催の研修会が開催されました。春休みともあって子供たちの参加もあり総勢 65 名参加しました。第１部では大山乳業農業協同組合（代表理事組合長 小前孝夫）の牛乳・ヨーグルト工場見学を行い、近くの琴浦町生涯学習センターにて大山乳業農業協同組合 酪農指導部 次長 今吉 正登氏と販売部長 川上 一敏氏による「琴浦町から全国へ～ 75 年つなぐ、酪農家の想い～」の研修を行いました。次のショートディスカッションでは壇上にて大山乳業農協生産者への質問、意見交換会を行いました。研修では 80 年近くに及ぶ生産・処理・販売一貫体制の酪農専門農協としての取組、良品質にこだわる姿勢など他県の生産者にとても勉強になった研修となりました。研修後はロイヤルホテル大山（鳥取県西伯郡伯耆町）へ移動し、懇親会が開催されました。催しとして６地域の牛乳を飲み比べ、その地域を当てるゲームを行いましたが少々難しかったようです。国立公園の大自然の中にあるホテルを皆さん楽しまれたと思います。（A.O）

工場外観

お詫びと訂正

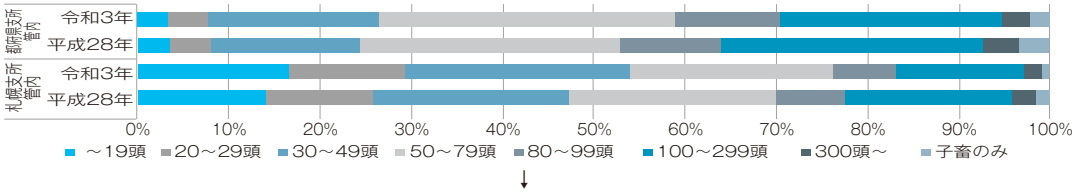
本紙３月号(No.690)４～７ページに掲載しました[令和３年度 会員概況調査より]に誤りがありました。謹んでお詫び申し上げますとともに、訂正いたします。

① １ 全国の酪農概況（農林水産省 畜産統計、牛乳乳製品統計調査より）の解説

＜誤＞ 8,629 千頭 → ＜正＞ 862 千頭

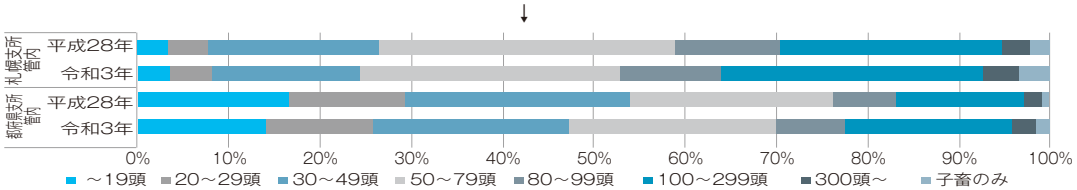
② ３ 会員の酪農概況 (2) 生乳出荷戸数（平成 28 年と比較可能な酪農組合・総合農協 105 会員）［飼養頭数別 生産者の割合］のグラフ

＜誤＞



↓

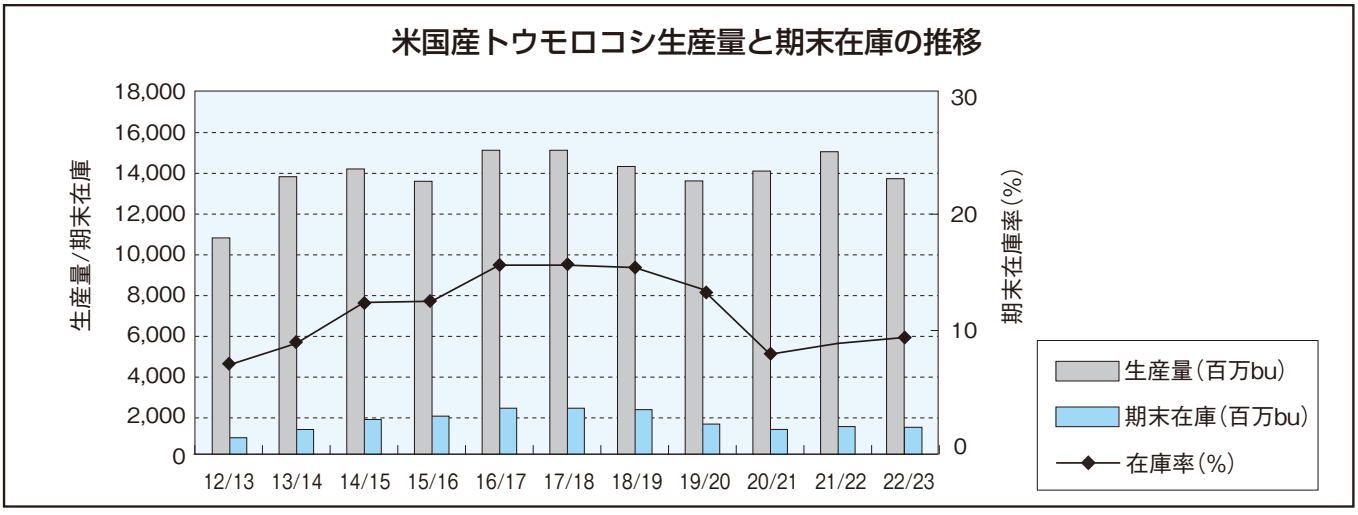
＜正＞

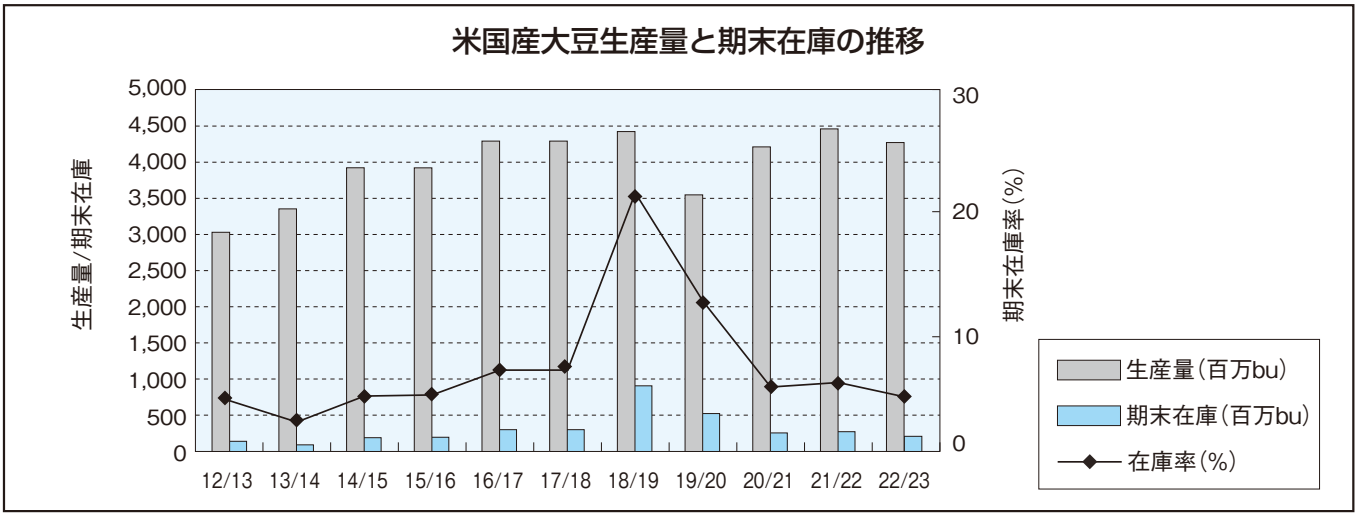


原料情勢　令和5年4月

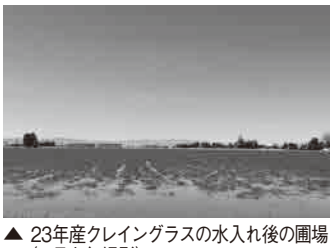
		21/22年産	22/23年産
4月10日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積（百万エーカー）	93.3	88.6
	単　　収（ブッシェル/エーカー）	176.7	173.3
	生 産 量（ブッシェル）	150億7,400万	137億3,000万
	需 要 量（ブッシェル）	149億5,600万	138億500万
	期末在庫（ブッシェル）	13億7,700万	13億4,200万
	在 庫 率	9.21%	9.72%

トウモロコシ 相場動向	ブラジル産二期作の豊作期待はあるものの、アルゼンチン産の高温乾燥による減産懸念、中国の順調な米国産トウモロコシの買付、ロシアが黒海の穀物輸出回廊協定を5月18日以降延長しないと発表したこと等から、シカゴ定期は堅調に推移している。当面は前述に併せて、米国産の作付進捗にかかる天候に一喜一憂される相場展開となる見通し。
大豆粕相場動向	国産大豆粕は油在庫過多による搾油量の減少から、搾油メーカーは強気の姿勢を見せている。輸入大豆粕は中国での豚コレラ発生から搾油量は伸びてはいるものの、飼料需要が減少していることから相場は弱含みに推移している。
糟糖類	【一般フスマ】小麦粉製品の販売は引続き低調ではあるが昨年対比需給は落ち着いている状態。しかし、回復という段階には至っておらず在庫逼迫懸念が継続しているため、相場は強含みで推移している。
	【グルテンフィード】外食産業の回復や夏季需要に向けてスターチメーカーは稼働期に入っており、発生量は昨年対比で増加していることから相場は弱含みに推移している。
海上運賃	フレート市況は、中国向けに豪州出し鉄鉱石・石炭やインドネシア炭の荷動きが堅調であることに加え、大豆を中心とした南米出し穀物も活発となっており、堅調に推移している。





輸入粗飼料の情勢　令和５年４月

北米コンテナ船情勢	アメリカ西海岸の海運情勢は概ね正常化しており、安定した本船スケジュールで運航されています。特にロサンゼルス・ロングビーチ港では景気後退と大手小売り業者において、未だに合意しない北米西岸港湾労使交渉を敬遠し、コンテナ貨物の輸入を東海岸にシフトさせているため、両港の今年2月のコンテナ取扱数量は昨年2022年2月に比べ38%減少しています。コンテナ海上運賃については、海運情勢の落ち着きと連動するようにピーク時より軟化しており、コロナウィルス感染拡大前の水準に近づいています。一方でカナダ産チモシーの出荷拠点となるカルガリーでは、中国を中心とするアジアからのコンテナ輸入量が減少しており、空コンテナ不足により船腹予約が難しく出荷遅延が増加しています。
ビートパルプ	【米国産】産地では４月に入り製糖作業を終了する工場が出始めています。22-23年産は産地における慢性的な労働人員の不足に加えて、ビートパルプの乾燥機の故障や、一部の工場で火災が発生したこともあり、生産面で苦労する年となっています。また米国内の物流に関しても冬季の悪天候と、工場と船積み拠点を結ぶ鉄道会社のサービス低下により、出荷作業に大幅な遅延が発生しています。新穀の23-24年産の生産については産地で寒冷な気候が続き、例年よりも雪融けが遅れています。この影響で播種作業の開始が遅れる可能性もあり生産スケジュールには今後も注視が必要です。
アルファルファ	【ワシントン州】歴史的高値により輸出向けアルファルファの荷動きは、低調なものとなっています。直近では日本、韓国向けだけでなく、これまで安定的に出荷が続いていた、中国向けも高騰する産地相場と為替の影響（中国元安）を背景に、出荷ペースが鈍化しています。産地輸出業者によると、これまで上級品中心であった中国向けの需要は、安価な中級品にシフトする動きも見られています。またワシントン州近郊における酪農家向けの需要は、軟化傾向にある米国内乳価の影響を受け、高騰したアルファルファの給与量を減少させ、代替として相場が落ち着いているトウモロコシやストロー類の給与量を増やし、飼料コスト低減に努める動きも見られています。23年産の作付面積は前年比で同水準か微増する見込みとなっている反面、直近の国内外の需要減少に加え、周辺地域では旱魃も改善されていることから、中国向けの需要次第になりますが、23年産の産地相場は22年産よりも軟化することが期待されています。
	【カルフォルニア州】カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは23年産２番刈の収穫が開始されています。23年産の１- ２番刈は収穫期に散発的な降雨があったものの、成分値の高い上級品が多く発生しています。産地相場については、22年産のピーク時と比べるとやや軟化傾向にありますが、内需及び輸出向けの買付が本格化していないため、今後も相場には注視が必要です。インペリアルバレーにおける３月15日時点の作付面積は、153,070エーカー（前年同期134,031エーカー）と前年同期比114%となっています。
チモシー	【米国産】22年産は産地相場が高騰した影響で日本、韓国といった主要国の需要が著しく減少し、多くの輸出業者で22年産の在庫を新穀に繰り越すことが見込まれています。他方で23年産の作付面積は主産地である、ワシントン州コロンビアベースンとキティタスバレーで前年並みになることが予想されます。
	【カナダ産】主産地であるアルバータ州では、冬期に大雪や最低気温が－20℃～－30℃となった日もあり、工場への原料草搬入が滞り、工場での生産が大幅に遅延しましたが、直近は天候も落ち着いており、生産は安定化しています。23年産については主産地のひとつである、クレモナ地区で２月まで深刻な旱魃となっていましたが、生育期である今後５～７月の降水量が例年並みの予報となっており、状況が改善するか、今後の天候に注視が必要です。
スーダングラス	主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、23年産の播種作業が開始されています。これまで雨の日が多く、気温も冷涼なため生育は例年よりも若干遅いペースとなっています。インペリアルバレー灌漑局の発表によると、４月1日時点の23年産の作付面積は10,678エーカー（前年同期13,987エーカー）となっており、前年同期比76%と、この時期としては過去10年で最低の作付面積となっています。また産地の水源であるネバダ州ミード湖の水位は過去最低水準まで落ち込んでおり、２年前の2021年４月と比較すると、およそ40フィート＝12メートル程度、水位が低くなっています。この影響で、インペリアルバレーの各生産者は引き続き節水しているため、23年産スーダンの生産量減少が懸念されますが、産地では22年産の繰り越し在庫が多く残っており、23年産の生産量が減少した場合でも日本からの需要を賄う十分な供給力がある見通しです。 ▲ 23年産スーダングラスの圃場（４月上旬撮影）
クレイングラス	クレインは全酪連の登録商標です。 主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーにおける４月1日時点の作付面積は22,033エーカー（前年同期19,323エーカー）となっており、先月に続き、前年同期比114%と増加しています。昨年22年産は米国内の旱魃と高騰したアルファルファ相場の影響により、クレイングラスに対する内需からの引き合いが強くなりましたが、直近では西海岸における旱魃状況は改善しており、昨年よりも調達できる飼料の選択肢が多いため、ピーク時に比べ内需からの引き合いは弱くなっています。引き続き内需の引き合いには注視が必要ですが、輸入需要を賄うには十分な生産が見込まれています。23年の生産については産地では水入れが開始されています。産地では例年よりも冷涼な気候が続いているため、1番刈の収穫は４月下旬から本格化する見込みです。  ▲ 23年産クレイングラスの水入れ後の圃場（4月上旬撮影）
バミューダ	主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーにおける４月１日時点の作付面積は64,722エーカー（前年同期61,503エーカー）と前年同期比105%の作付面積となっています。天候次第になりますが、23年産は4月中下旬から収穫が開始される見込みとなっており、種子相場が堅調な為、序盤は例年通り多くの生産者が種子向けの収穫を行う見込みです。
ストロー類（フェスキュー・ライグラス）	22年産のライグラスストローとフェスキューストローは、需要国である日本、韓国で自給飼料が多く収穫できたため、荷動きが鈍化しています。産地では余剰在庫が発生しており、産地相場は軟化傾向にあります。
オーツヘイ	【豪州産】豪州では23年産の播種前に輸出業者と生産農家の間でオーツヘイ買付けにおける仮契約の交渉が進められています。直近、小麦などの穀物相場が軟化していることや、国内外からのオーツヘイの引き合いが増加していることから、西豪州では23年産オーツヘイの作付面積は前年比10%程度増加することが見込まれています。南豪州、東豪州においては、23年産は前年と同程度の作付面積となることが予想されています。一方で、この先の生育期に例年よりも乾燥した天候となることが全豪的に報じられており、旱魃は単収が減り生産量に影響を及ぼすため、今後の天候には注視が必要です。

主催　全国酪農青年女性会議 / 全国酪農業協同組合連合会

酪友フォーラム2023 in 札幌

Challenge to the Next Stage ～酪友とともに50年 次の時代へ～

2023年7月13日(木) 13:00～18:00 ※終了後18:30より懇親会

例年7月に開催している全国酪農青年女性酪農発表大会は、昨年の大会で節目の50回を迎えました。今年は50年を振り返るとともに、近年のコロナ禍での各地域の様々な酪青女活動の事例を知り、それを糧として再び皆様の活気を取り戻すきっかけになればと『酪友フォーラム2023』を開催することとしました。
初夏の北海道で元気を分かち合いませんか?!

主な内容

●過去の発表者による現況報告
過去の酪農発表大会において
優れた発表を行った方による現況報告

●酪農青年女性会議の活動報告
各地域の酪青女による
様々な活動事例の紹介

●パネルディスカッション
酪農生産者、酪農団体関係者、
有識者によるパネルディスカッション
コーディネーター
石川 實 氏（ラジオパーソナリティー）
パネラー
酪農生産者、酪農団体関係者、有識者
（予定）

石川 實 氏
ラジオパーソナリティー

日本大学芸術学部演劇科卒。テレビドラマ・映画・舞台などに多数出演。1997年ラジオDJに転身し、レギュラー番組を持つ。近年は番組を通じ、様々な社会貢献活動を行い、各方面から高い評価を得ている。
※「石川實DAIRY LIFE」（TBSラジオ）
2015年10月～O.A中

大会参加費

1名 **3,000円**（フォーラムのみ）　1名 **13,000円**（大会・懇親会まで）　※宿泊につきましては、各地域会議事務局にお問い合わせください。

大会会場・アクセス

●会場
「札幌パークホテル」
〒064-8589
札幌市中央区
南10条西3丁目1-1
TEL. 011-511-3131

●アクセス

●電車の場合
新千歳空港駅よりJR 千歳線
快速エアポート約40分、札幌駅乗り換え。
地下鉄（さっぽろ駅・南北線）で5分、
中島公園駅下車3番出入口より徒歩すぐ。

●車の場合
JR札幌駅から車で10分。
新千歳空港からは車で約50分、
または札幌丘珠空港からは車で約30分。

大会事務局 全国酪農青年女性会議
〒151-0053　東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館
全酪連 総務部 組織対策課 内 / TEL. 03-5931-8003

作品募集のお知らせ

第49回 らくのうこどもギャラリー

❶ 募集規定
⑴酪農を中心とした題材の図画（大きさ、技法は自由）
⑵自作で未発表のものに限ります。
⑶作品には、題名・住所・氏名・振り仮名・年齢・学校名・学年・保護者名を必ず記載してください。また、酪農家の子弟については保護者の所属組合名を記載してください。
⑷作品返却を希望される方は応募時に返却希望の旨を申し出てください。

❷ 応募資格
４歳から中学生までの酪農家の子弟、および酪農に関心のある一般のお子さん。

❸ 締 切 日
令和５年５月26日（金）（必着）
または、各地域会議締切日に準ずる。

❹ 提 出 先
下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性会議事務局宛に提出してください。

❺ 審査結果の発表
「全酪連会報７月号」に審査結果を掲載いたします。

❻ 褒　　賞
- 特　選　　１点
- 入　選　　４点
- 秀　作　　若干
- ファミリー賞　若干
  （牛とのふれあいなど、ほのぼのとした雰囲気を持つ作品に贈られます）
- あすなろ賞　　若干
  （小学校入学以前の方の優秀作品に贈られます）

第48回 特選
「正面からみた牛」
喜多 小雪さん

◎入賞者には記念品を贈呈いたします。
◎図画の優秀作品は、作者の顔写真・審査講評と共に「全酪連会報」の最終ページに掲載します。

第13回 酪農いきいきフォトコンテスト

全国酪農青年女性会議では、酪農家の生活や牛乳の生産現場をより鮮明に消費者に伝えていくことを目的に、「酪農いきいきフォトコンテスト」を実施します。
つきましては、下記のとおり作品を募集しますので、ふるってご応募いただきますようお願いいたします。

❶ テ ー マ
⑴「乳牛のいる風景」
⑵「酪農作業風景」
※いずれも、酪農家がいきいきと牛乳生産に励む様子や、安心安全な牛乳生産のため懸命に仕事に取り組む姿勢が感じられるようなもの。

❷ 募集規定
⑴写真は可能な限りデータで提出してください。
⑵自作で未発表のものに限ります。
⑶作品には、題名・氏名・振り仮名・住所・所属組合名を必ず記載してください。

第12回 特選
「お引越し」
佐久間 幸枝さん

❸ 応募資格
酪農家

❹ 締 切 日
令和５年５月26日（金）（必着）
または、各地域会議締切日に準ずる。

❺ 提 出 先
下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性会議事務局宛に提出してください。

❻ 審査方法
応募作品を「酪友フォーラム2023」の会場内に掲載し、フォーラム参加者の投票による審査を行います。
※応募多数の場合は事務局による予備審査を行います。

❼ 審査結果の発表
⑴「全酪連会報」にて発表します。
⑵「全酪連会報」の表紙に使用します。（号数未定）

❽ 褒　　賞
- 特　選　　１点
- 入　選　　若干

◎入賞者には賞品を贈呈いたします。
◎提出していただいた作品の返却はいたしません。
◎応募していただいた作品は、全酪連会報およびカレンダーへの掲載を含め、今後各地での牛乳消費拡大活動（「父の日に牛乳を贈ろう！」キャンペーン含む）等で使用することがありますのでご了承ください。

提出先一覧

●北海道酪農青年女性会議
〒060-0003　札幌市中央区北3条西7丁目1
酪農センター5階 全酪連札幌支所内
TEL 011-241-0765

●東北酪農青年女性会議
〒980-0021　仙台市青葉区中央1-7-20
東邦ビル3階 全酪連仙台支所内
TEL 022-221-5381

●関東甲信越酪農青年女性会議
〒151-0053　東京都渋谷区代々木1-37-2
酪農会館 全酪連東京支所内
TEL 03-5931-8011

●中部酪農青年女性会議
〒460-0008　名古屋市中区栄1-16-6
名古屋三蔵ビル3階 全酪連名古屋支所内
TEL 052-209-5611

●西日本酪農青年女性会議
〒532-0011　大阪市淀川区西中島5-14-10
新大阪トヨタビル6階 全酪連大阪支所内
TEL 06-6305-4196

●九州酪農青年女性会議
〒812-0016　福岡市博多区博多駅南1-2-15
事務機ビル7階 全酪連福岡支所内
TEL 092-431-8111

INFORMATION

北海道 乳牛産地情報

令和５年５月１日現在

札 幌 支 所　TEL 011-241-0765
釧 路 事 務 所　TEL 0154-52-1232
根室駐在員事務所　TEL 01537-6-1877
帯 広 事 務 所　TEL 0155-37-6051
道 北 事 務 所　TEL 01654-2-2368

価格状況 ⬆……強含み ↗……やや強含み ➡……横這い ↘……やや弱含み ⬇……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	20～30	➡	札幌管内の４月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で96.7%、苫小牧管内月計で93.6%の実績となっております。５月の初妊牛動向といたしまして、７月下旬～８月中旬分娩が中心となります。夏分娩中心の取引となることを受け、価格は軟調に推移するものと予想されますが、雌雄選別腹の需要が高まっていること、資源が少ないということもあり、腹の内容によっては、引き合いがかなり強くなっている状況です。経産牛につきましては、離農などにより出回り資源は多くあるため全体的には横這いの価格となりますが、産歴の少ない経産牛についてはやや強含みに推移すると見込まれます。
	初妊牛	45～55	⬇	
	経産牛	35～45	↗	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	25～35	➡	根釧管内の４月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で94.2%、中標津管内月計で94.7%の実績となっております。５月の初妊牛動向といたしまして、７月下～８月中旬分娩となります。初妊牛に関しまして、根釧地区において、引き合いが強く、また、資源の流れも早くなっております。庭先購買において分娩前２ヵ月以内の資源は既に売られてしまっている状況です。夏分娩中心となることから、全体的な価格は弱含みに推移すると見込まれるものの、上クラスは60万円前後になるものと予測されます。腹別ではＦ１腹・雌雄選別腹の価格差は小さくなってきております。経産牛につきましては、道内需要により先月と同様に引き合いが強くなっております。
	初妊牛	48～58	⬇	
	経産牛	40～50	➡	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	25～35	➡	帯広管内の４月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で95.3%の実績となっております。５月の初妊牛動向といたしまして、７月下月～８月中旬分娩が中心となっています。初妊牛に関しては、需要が落ち込む夏分娩中心の資源が取引されることから、価格は軟調に動くものと見込まれます。腹別については、雌雄選別腹は資源が少ない状況であり、資源確保に伴う需要も強く、しばらくは引き合いが強くなるものと考えられます。経産牛に関しましては、資源はありますが、乳価値上げとギガファームの規模拡大により即戦力の需要が高まり、産歴の少ない牛は高値で取引される状況となっております。
	初妊牛	48～58	⬇	
	経産牛	43～53	⬆	
道北管内	育成牛(10-12月令)	20～30	↗	道北管内の４月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で94.5%、北見管内月計で92.6%の実績となっております。５月の初妊牛動向といたしまして、７月下旬～８月中旬分娩となります。初妊牛に関しましては、資源頭数が前年並みにあることに加え、夏分娩中心の取引に移行していくため、相場は軟調な動きを見せると予想されます。Ｆ１腹の増加による、雌雄選別腹の資源減少で引き合いが多少強くなると予想されます。経産牛に関しましては、即戦力の需要が高くなるため横這いで推移すると予想されます。育成牛に関しましては、道内での引き合いがあるためやや強含みで推移すると予想されます。
	初妊牛	45～55	↘	
	経産牛	28～38	➡	
道内総括	育成牛(10-12月令)	25～35	➡	道内の４月中旬までの生乳生産量前年比は94.8%の実績となっております。春本番となり、温かい日が続く北海道内となり、５月末からは放牧が始まる時期となりました。５月の初妊牛動向といたしまして、夏分娩に移行するため全体では軟調に推移すると見込まれています。しかしながら、資源不足である雌雄選別腹や即戦力となる産歴の少ない経産牛などは需要が高く高値で推移すると思われます。また、道内外ともに、厳しい状況は続きながらも、乳価値上げによる導入意欲回復があると見込まれるため、価格動向には注視しながら資源確保に向けて動いていきたいと思います。このような状況ですので、資源確保のため導入計画がございましたらお早めにお近くの弊会担当者までご注文を頂きますよう宜しくお願い致します。
	初妊牛	48～58	⬇	
	経産牛	35～45	➡	

今月の表紙

今月の表紙は「第12回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「牧場って楽しいね」（熊本県 長塩昌也氏 撮影）です。

令和５年５月10日発行（毎月1回10日発行）
全酪連会報　５月号　No.692
●編集・発行人　岡田征雄
●発行　全国酪農業協同組合連合会
〒151-0053　東京都渋谷区代々木一丁目37番２号 酪農会館
TEL 03-5931-8003　https://www.zenrakuren.or.jp/

編集後記

●マスク着用緩和や、季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行など、“コロナ収束”が叫ばれますが、皆様、ゴールデンウィークは満喫できましたか？
酪農家の皆様にとっては牧草地や自給飼料畑での作業も本格化する季節ですね。
疲れがたまりやすい時期でもありますので、生活リズムを整えて初夏の過ごしやすいこの季節を楽しみましょう。
●会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

今月の らくのう こどもギャラリー 入賞作品紹介

かわいい牛さん

認定こども園北陽幼稚園・第2北陽保育園 4歳（北海道） 石田菜緒

今月の入賞作品は…

認定こども園北陽幼稚園・第2北陽保育園 4歳（北海道）の石田菜緒さんの作品です。

水彩やクレヨンを大胆に使って描かれた素朴で味わいのある作品です。なにやら柔らかい物体が大地に降り立っているようにも見えます。4歳の時にしか描けない水彩の筆使いやクレヨンの指圧など、いとおしさを感じます。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第48回らくのうこどもギャラリー」で全国205点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催　全国酪農青年女性会議